

# 労働運動の原則を守り たくましく前進する銚子支部

## 12/12 銚子支部大会

# 日刊労働千葉

81.12.15

No.921.

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆) 四三(22)七二〇七

十二月十二日、銚子支部は運転区二階講習室において、第二回支部定期大会を開催しました。大会には来賓として、本部から関川委員長、水野副委員長、森内・重見両特執並びに銚子労働金庫より代表が参加し、最終的に支部組合員の全員参加をかちとるという大きな成果を得ることができました。

本年六月十九日動労千葉銚子支部として結成してより、日夜苦闘し、闘い抜いた全ての支部組合員の成果をかけた大会は熱気が満ちあふれ、自信にあふれた質疑・討論をへて、八二年に向けた運動方針と財政方針を確認し、圧倒的な成功をおさめた。

**銚子支部通信員宛**

「団結かたく、更に更に前進して行こう」〓宮崎支部長あいさつ〓

大会は秋葉支部副委員長の開会宣言から始まり、議長には林氏(検査)が選出され、最初に宮崎支部長が挨拶に立ち、「銚子支部を結成し、さまざまな苦難をのりこえて動労千葉の八〇年代に向けた自前の労働運動を堅持し、強化・発展に向けて今日まで闘い抜いてきた。われわれをとりまく情勢はたいへんきびしい時代であり、国鉄内においては三五万人体制合理化攻撃や第二マル生の攻撃が一層強まってきている。八一・三闘争を権力・国鉄当局・動労『本部』を粉碎して勝利してきた動労千葉に結集して闘うことが、労働者の生活・権利を守る道だと信ずる。『六・一二告訴事件』を許さず、第二マル生を職場生産点から闘い抜こう。さらに、支部組合員全員が一致団結して銚子支部体制を強化・拡大しつつ、闘っていかう」と力強く宣言しました。

「全十一支部の先頭に立って、銚子支部は頑張っほしい」

〓関川委員長が激励〓

つづいて来賓の関川委員長から、銚子支部の闘いに対して敬意が表明され、いま政府自民党の「行革」攻撃の中で、国鉄に対して「三五万人体制」どころか「二〇万人体制」にまで攻撃が激化しようとしている。われわれはかつてマル生攻撃に打ち勝って来たが、いまの攻撃は体制側からの組合まるがかえり変質の攻撃が右翼労働「統一」攻撃としてかけられてきている。そして戦闘的労働運動破壊Ⅱ産報化によって労働者が戦争にまきこまれる。断固として戦争への道を阻止しよう。こうした中で支部結成の意義にふまえ、組織の強化・拡大に向けて、動労千葉全十一支部の先頭に立って、銚子支部は頑張っほしい」と挨拶され、水野副委員長、二名の特執と銚子労金代表もそれ

激励をおこないました。

つづいて執行部より、経過報告、運動方針、財政方針が提起され、質疑応答に入った。多くの発言が出され、その要旨は「検査合理化問題」「財政基盤の確立について」「三五体制に対する日常的な学習。具体的闘いについて」「反合・運転保安について、とりわけ『成東・松尾間の線路悪化による抜本的改善』『電留線のストップの改善』について」「木原線廃止問題について」「号俵の中抜き問題について」「要員問題について」「号俵のするどい質問が出され、本部水野副委員長および森内特執から答弁・報告を受け、さらに今後とり組むべき課題は支部と各分科が精力的に本部との連携を密にしてとり組むことを確認し、経過報告、運動方針、財政方針を満場一致採択しました。

「本部」反動分子を粉碎し、労働運動の闘う原則うちたて、前進するぞ

大会は八〇年代自前の労働運動のもと三里塚農民との固い連帯のもと、さまざまな反動との攻撃に抗して三里塚を基軸とした労働運動を強化・発展させ、軍事大国化・改憲を阻止し、「三五体制」粉碎に向け、原則的な立場で闘うことを決定しました。とりわけ、労働組合にあらざる警察労働運動に墮落した動労「本部」革マル反動分子との対決を通して、真の労働運動を銚子に強固に築きあげていくために、さらに一層全支部員が奮闘していくことをしっかりと確認した事は、きわめて重要な意義があります。最後に宮崎支部長の団結ガンバローにより大会は成功裡のうちに終了しました。

